

宮城県断酒会委託事業の取り組み

基幹センター 企画課
精神保健福祉士 大沼れいら

1. はじめに

みやぎ心のケアセンター（以下、当センター）では、アルコール関連問題対策事業として、NPO 法人宮城県断酒会（以下、断酒会）に事業を委託している。この事業は、東日本大震災により各地域で課題となっているアルコール関連問題に対応するため、その対応に必要な、当事者の支援体制の確保を図るとともに、地域住民及び被災地で活動する支援者に対しての知識や技術の伝達を目的としている。ここでは、断酒会と協力して行った平成 26 年度の取り組みについて報告する。

2. 活動概要

（1）気仙沼市本吉地区断酒例会

月 1 回の例会を設け、近況報告や酒害体験等を語り合う場として開催している。参加している支援者（自治体、病院、社会福祉協議会、地域包括支援センター、断酒会、当センター）の連携により、地域の気になるケースや断酒例会欠席者の安否確認等、見守り活動が自然に行われるようになってきた。現在は当事者より支援者の参加の方が多く、当事者主体での運営は難しい状況だが、徐々に当事者主体の活動へと移行できるよう努めていくことが必要と考えられた。

（2）東松島市アルコールオープンセミナー

東松島市のアルコール関連問題対策事業として、サポートセンター職員や障害者相談支援事業所の相談員等の支援者を対象とし、当事者や家族も参加するオープンセミナーを断酒会と協力して実施した。アルコール使用障害についての知識や回復のイメージを持つことを目的とし、断酒会からは会の紹介と、体験談の発表を行った。参加者からは、当事者の体験談が印象深かったとの感想が寄せられ、アルコール使用障害についての理解に役立ったと考えられた。

（3）石巻市河北地区アルコール関連問題研修会

平成 26 年度に開催した、アルコール関連問題を抱えるプレハブ仮設住宅入居者の個別支援会議の中で、当事者活動の必要性が示された。また、自治体より当事者団体の協力を得ながら当事者と支援者の両方を対象とした研修会を開催したいとの希望があった。研修会の開催に向け、医療法人東北会東北会病院（以下、東北会病院）、断酒会、河北総合支所、地域包括支援センター、当センターでの打合せを数回行い、断酒会に

よる体験談発表やグループワークを中心とした第1回目の研修会を開催した。研修会を通し、当事者活動の重要性を認識した人が増えたことや、各関係者が連携してアルコール関連問題に取り組む必要性を支援者間で再確認することができた。

(4) 仙台保健福祉事務所管内の支援者を対象としたアルコール関連問題研修会

アルコール関連問題に対応する機会が増えている現状において、被災者支援に携わっている支援者を対象とした研修会を断酒会と協力して行った。内容としては、東北会病院の医師による講話と、断酒会による体験談の発表を行った。当事者の生の声を伝えることで、参加者にアルコール使用障害についての理解を深めていただく一助となった。

(5) 名取市断酒会立ち上げに向けて

仙南地域に断酒会が無かったことと、アルコール関連問題に対応する機会の増加により、名取市に断酒会を立ち上げることとなった。平成26年度は、断酒会、名取市、東北会病院、当センターで立ち上げに向けた打ち合わせを行った。対象は、名取市とその近隣にある自治体のアルコール問題を抱える方とした。立ち上げの段階から、キーパーソンとなる当事者の方に参加していただき、徐々に住民・断酒会主体で運営できるよう今後も協力していく方針である。

3. 終わりに

平成26年度は、主に上記の事業を行ってきた。石巻市河北地区や名取市での活動など、新たな断酒会を立ち上げる動きも増えている。今後も被災地では、引き続きアルコール関連問題への対応が必要になると考えられる。そのため、断酒会と協働しながら平成27年度も活動を続けていきたい。

最後に、執筆にあたりご協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げる。